



キリングループ°

2022年度12月期 第2四半期決算

2022年8月8日
キリンホールディングス株式会社

「新たな成長軌道」に向けた進捗

Joy brings us together

不確実要素の多い環境の中、着実に経営課題を解決



地政学リスク
の高まり

- ウクライナリスクの長期化
- ミャンマー政変



急激なコスト
上昇

- 原材料・燃料価格高騰
- 急激な円安



消費行動の
変化

- コロナ禍からニューノーマルへ
- 健康意識の高まり
- 可処分所得の圧迫



環境変化に対応し
経営課題を解決

着実に結果を
積み重ねる

事業利益目標を期初計画から上方修正

原材料・燃料等 コスト上昇



価格改定を含めた

収益改善策で対応

コロナや洪水等 事業環境の変化



事業ポートフォリオ経営の真価を発揮し

事業間で業績をカバー

2022年度 連結事業利益

期初計画 **1,660**億円 ▶ **1,720**億円へ**上方修正**

期初計画ではゼロと見込んでいたミャンマー・ブルワリーの実績（46億円）を除くと1,674億円

ミャンマー事業の撤退



様々な制約がある中で予定通り交渉をまとめ

株式譲渡 合意

株式譲渡額：約224億円（予定）

最適な
事業ポートフォリオ
実現に向けて進捗

華潤麒麟飲料の株式譲渡



8/5

株式譲渡 完了

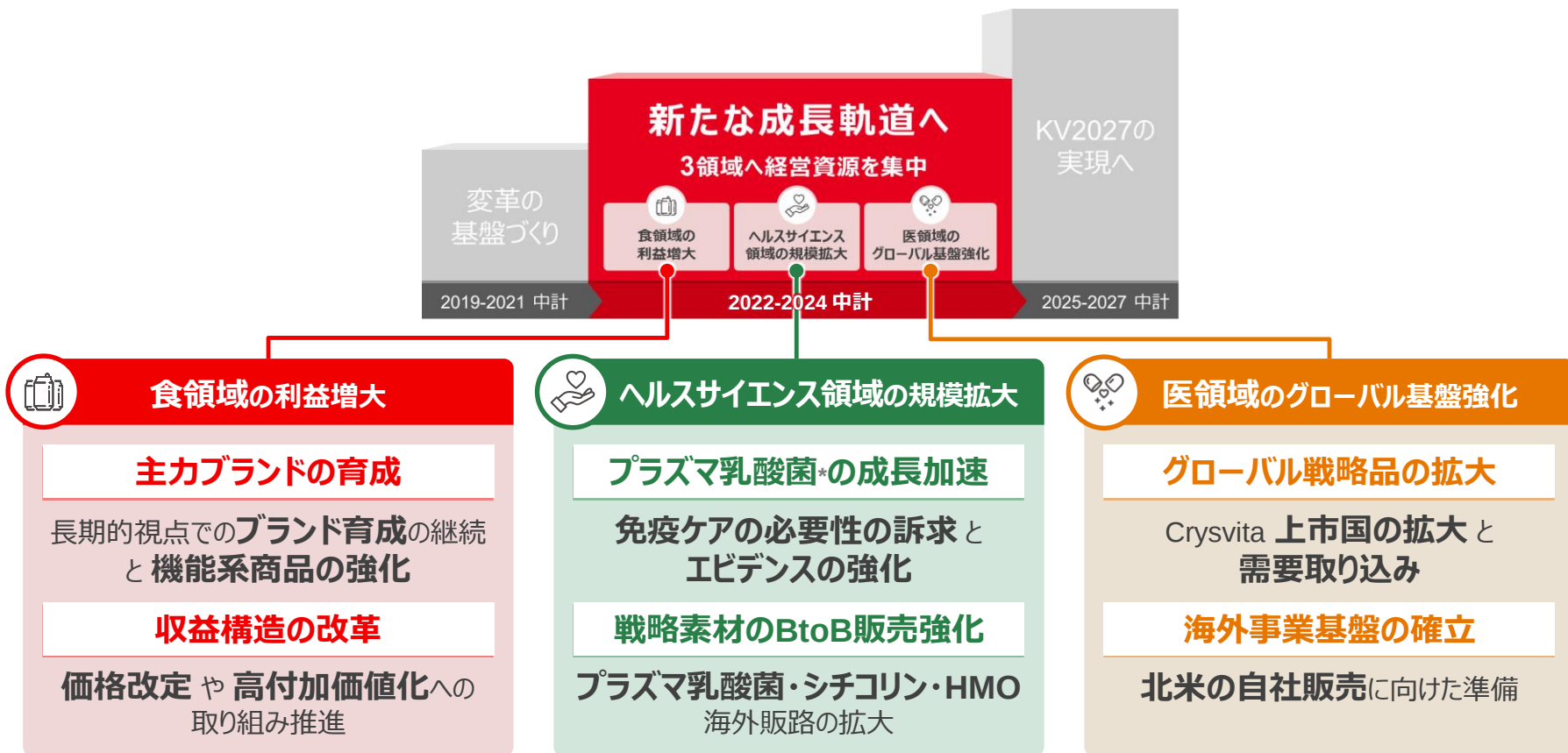
株式譲渡額：約1,200億円

ヘルスサイエンス事業や海外クラフト等 **注力分野での成長を加速**させる

+

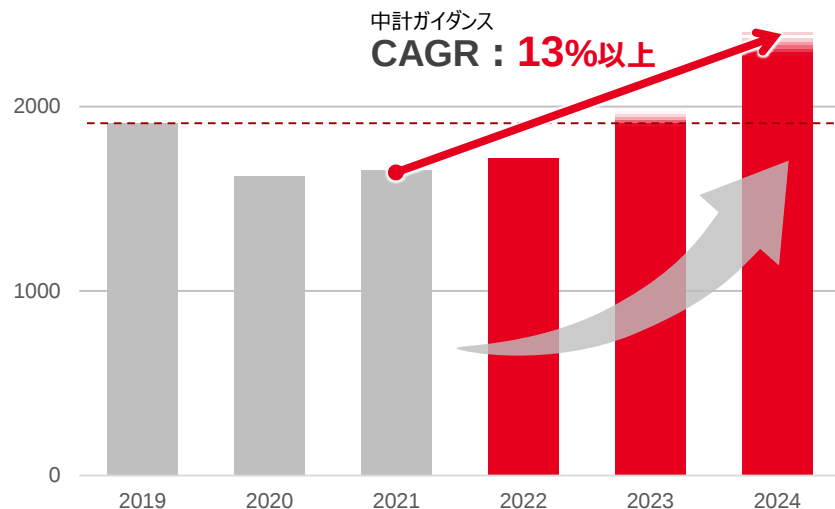
発表済の自己株式取得（上限500億円）は年内に完了予定

食・ヘルスサイエンス・医領域で成長戦略を着実に推進



厳しい事業環境においても目標を変えずに中計達成を目指す

連結事業利益（億円）



来期
ダウンサイド要因

- 原材料・燃料等コスト増
- 為替変動



戦略を着実に推進し
中計財務目標を
達成する

➤ KV2027で掲げる「世界のCSV先進企業」に向けても着実に前進

Environment

食品業界 世界初 SBTネットゼロ 認証取得

- キリングroupの2050年GHGネットゼロ目標が科学的根拠に基づいているとして、SBTイニシアティブより認定取得
- 2017年日本の食品業界初のSBT2.0°C、2020年SBT1.5°Cへのアップグレードに続く認証の取得

世界初 TNFD*のフレームワークに基づいた自然関連財務情報の開示を開始

- TNFDタスクフォースで世界初の事例として紹介
- スリランカ紅茶農園や梔子ワイナリー等での活動を分析・開示



【環境報告書】

Social

プラズマ乳酸菌による新型コロナの増殖・発症抑制に関する研究

- 国立感染症研究所との共同研究として、プラズマ乳酸菌のメカニズムの応用・発展により、新型コロナを対象とした医薬品としての効果を検証予定
- 国立研究開発法人であるAMED*が進める革新的医薬品等の研究開発事業として採択



内閣府、文科省、厚労省、経産省が管轄する医療の基礎から実用化までの研究開発をリードする国立研究開発法人

素材としてのプラズマ乳酸菌（乳酸菌 *L. ラクティス* プラズマ）に関する情報を記載しています。プラズマ乳酸菌を含む製品の効果・効能を示すものではありません。

Index 評価

MSCI ESG格付け キリンホールディングスに続き、協和キリンでもAAを獲得



2022年 第2四半期決算概要

Joy brings us together

2022年度2Q決算および2022年度通期業績予想サマリー

2022年度 2Q実績

- 連結売上収益は対前年+6.1%、連結事業利益は+0.2%と、厳しい事業環境においても増収増益を実現した。
- 税引前四半期利益は、前年のミャンマー事業に係る減損損失戻入益等により、+68.6%の増益となった。
- 親会社の所有者四半期利益は、税引前四半期利益の増加や法人税費用の負担率減少により、+133.1%の増益となった。

2022年度 通期業績予想修正

- 連結売上収益及び連結事業利益は、期初予想ではゼロと見込んでいたミャンマー事業の増分を踏まえ、期初計画に対し、連結売上収益は+2.1%、連結事業利益は+3.6%上方修正。
- 事業ポートフォリオ改革等により、親会社の所有者当期利益は+17.0%、ROICは約10%を見込む。
- 一株当たり年間配当金は年初計画の65円を維持（配当性向40%以上）。

➤ 医領域と北米飲料事業の好調や為替影響等により、増収増益

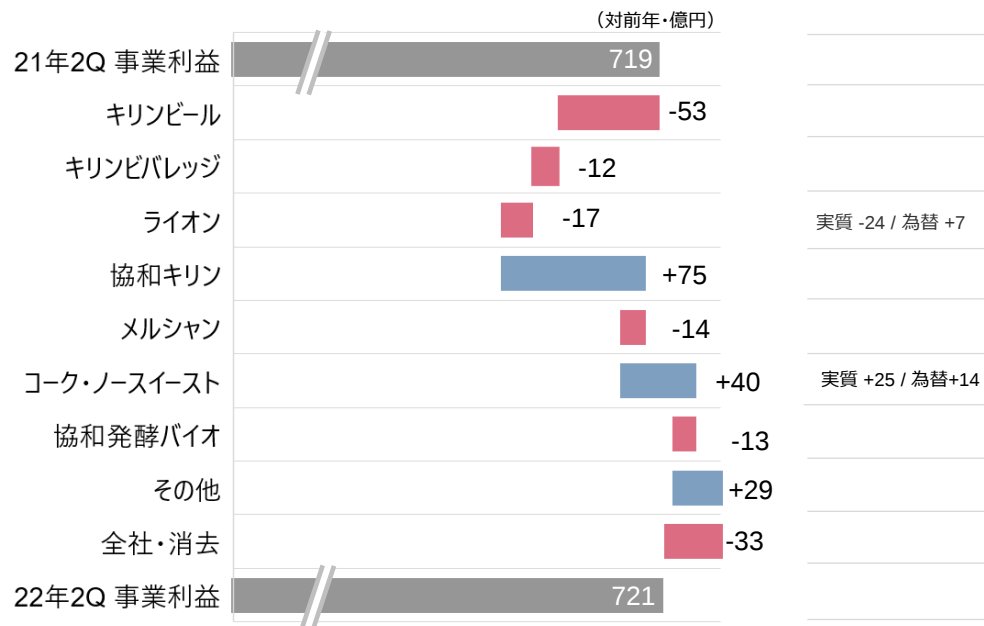
(億円)	22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
売上収益	9,170	8,640	530	6.1%
事業利益 ※1	721	719	2	0.2%
税引前四半期利益	952	565	387	68.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	554	237	316	133.1%
定量目標	22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
平準化EPS ※2	64円	65円	-1円	-1.5%

※1 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

※2 明細はp.22参照。

2022年度 2Q実績：連結事業利益 事業会社別増減

▶ ポートフォリオ全体で補完しあい、増益を確保



補足

麒麟ビール

- ▶ 販売数量が業務用の増加を上回る家庭用の減少となったことや、原材料等の高騰により減益。

麒麟ビバレッジ

- ▶ 販売数量の減少に加えて、原材料等の高騰により減益。

ライオン

- ▶ 豪州の販売数量回復と北米クラフトの好調があるも、1Qの外部影響による遅れをカバーできず減益。

協和麒麟

- ▶ グローバルビジネス基盤の確立に向け、販売費及び一般管理費が増加も、海外の売上収益の増加や為替影響により増益。

コーク・ノースイスト

- ▶ 価格改定実施後も販売数量増加により、大幅増益。

協和発酵バイオ

- ▶ 中国上海のロックダウンにより現地の製造および販売に制限が生じたことや原材料等の高騰により減益。

全社費用・セグメント間消去

- ▶ 情報システム費用が増加。

※ 「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。
 ※ 「ミャンマー・ブルフリー」は、2022年度より「その他」に区分を変更。

2022年度：コスト増と収益改善策Update

コスト増に対して、収益改善策の着実な進捗とさらなる追加施策を講じることで、影響を最小限に留める

原材料等コスト増（年間）

連結計		事業会社別
期初計画 約140億円	約 400~ 430 億円	麒麟ビール 約110億円
----- + -----		ライオン 約90億円
1Q時追加 約180~210億円		麒麟ビバレッジ 約70億円
----- + -----		コーク・ ノースイースト 約70億円
2Q時追加 約80億円		他

※主な項目：原材料費、燃料費、運搬費、人件費 他

収益改善策（年間）

連結計		事業会社別
期初計画 約110億円	約 450~ 480 億円	麒麟ビール 約190億円
----- + -----		ライオン 約100億円
1Q時追加施策 約140~170億円		麒麟ビバレッジ 約70億円
----- + -----		コーク・ ノースイースト 約80億円
2Q時追加施策 約200億円		他

※主な項目：価格改定影響、マーケティング費削減、SCMコスト削減 その他販管費削減 他
(販売数量増加策、ミックス改善策は含めていない)

2022年度 業績予想修正

▶ ミャンマー・ブルワリーの上半期実績や、為替影響を織り込み、業績予想を上方修正

■ 通期業績予想

※通期為替予想レートをそれぞれ以下の通り修正
豪ドル82円⇒90円 米ドル113円⇒126円

(億円)	22年通期 (修正予想)	21年通期 (実績)	対前年増減	%	22年通期 (従来予想)	修正額	%	主な修正額
売上収益	19,900	18,216	1,684	9.2%	19,500	400	2.1%	コーク・ノースイースト+361(内、為替+203) / 協和麒麟+200 / ライオン+168(内、為替+228) / キリンビール-398
事業利益	1,720	1,654	66	4.0%	1,660	60	3.6%	協和麒麟+90 / コーク・ノースイースト+49 (内、為替+23) / キリンビール-70 / メルシャン-29
税引前利益	2,270	996	1,274	127.9%	1,770	500	28.2%	華潤麒麟飲料売却益+500
親会社の所有者 当期利益	1,340	598	742	124.1%	1,145	195	17.0%	法人所得税費用-165 / 非支配持分当期利益 -140

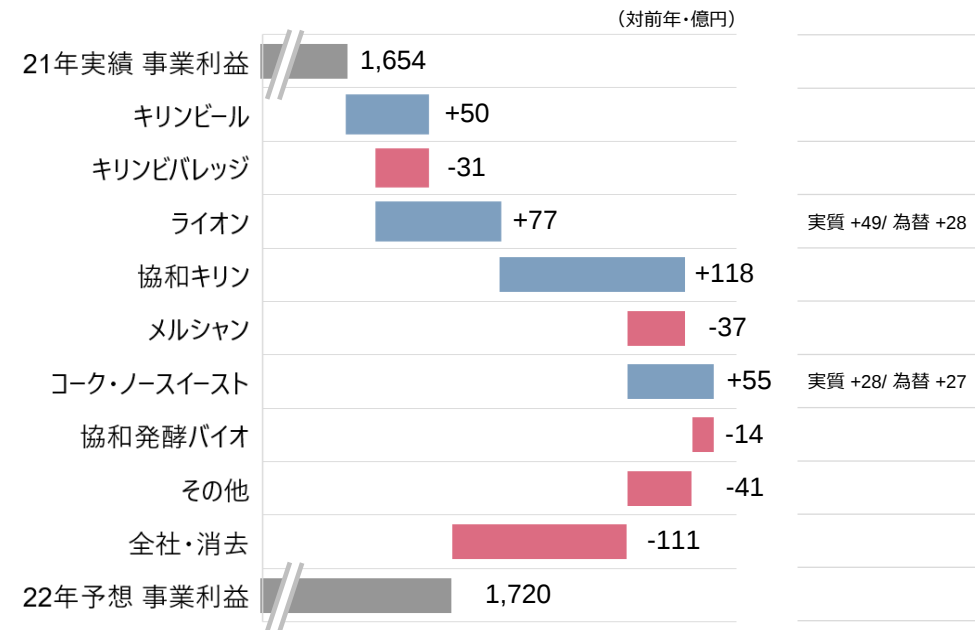
+は年初に対して益方向、-は損方向への修正を指す

■ 定量目標 / 通期予想配当金 (一株当たり)

(億円)	22年通期 (修正予想)	21年通期 (実績)	対前年増減	22年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	10.2%	4.2%	—	8.3%	—
平準化EPS	157円	156円	1円	157円	—
年間配当金	65円	65円	—	65円	—

2022年度 業績予想修正：連結事業利益 事業会社別増減

▶ 日豪酒類事業、北米飲料事業、医薬事業の成長により、増益を目指す



補足

※従来予想からの修正額はp.26を参照。

キリンビール

- ▶ 販売数量の減少と原材料高騰影響を価格改定でカバーできず下方修正も、前年比で増益を計画。

キリンビバレッジ

- ▶ 販売数量の減少や原材料高騰影響を価格改定やコストコントロールなどで対応し、年初計画より修正なし。

ライオン

- ▶ 1Qの外部環境影響によるマイナスを為替のプラス影響で相殺するも、若干の下方修正。前年比では増益を計画。

協和キリン

- ▶ 海外売上収益の好調や為替影響などを要因に上方修正。

コーク・ノースイースト

- ▶ 値上げ後も販売好調により上方修正。

協和発酵バイオ

- ▶ 上海ロックダウンの影響などにより下方修正し、減益を計画。

その他

- ▶ ミャンマー・ブルワリーの上期実績を反映。

全社費用・セグメント間消去

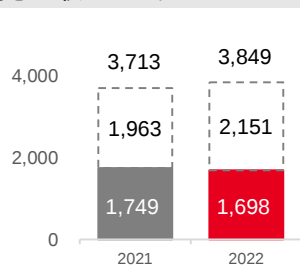
- ▶ 年初計画より変更なし。

※「その他」には、「国内ビール・スピリッツ」セグメント内の「その他」を含む。
 ※「ミャンマー・ブルワリー」は、2022年度より「その他」に区分を変更。

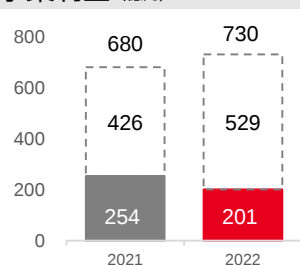
実績・計画

酒税抜き
売上収益 (億円)

下期計画
上期実績



事業利益 (億円)



家庭用は外食需要増加等を受け軟調の一方、業務用は4~6月で対19年比7割弱まで回復。
下期は価格改定がある中で、投資コントロールを行いながらブランド育成に注力する

上半期の進捗

期央修正・下半期の取り組み

▶ 主力ブランドの強化

一番搾りブランド計 **+1%*** 一番搾りブランド計(缶) **▲13%***

- 昨年度一番搾りリニューアル裏返し効果 (21年上半期 ブランド計(缶) : +45%*)
- 6月単月：一番搾りブランド計+8%*

一番搾りブランド計(缶) 下期計画 **+6%*** 年間計画 **▲3%***

- 一番搾りブランド計 (年間計画) +10%*
- **一番搾り糖質ゼロをリニューアル**



▶ プレミアム商品の拡大

スプリングバレーブランド **▲2.5%***



高付加価値RTD 構成比 **約5%**

スプリングバレーブランド (年間計画) **+50%***

- 新フレーバー **シルクエール<白>**を9月中旬に新発売
- 下期はクラフトに資源集中



▶ Home Tapの顧客関係力強化とビジネスモデルの検証

上半期 **ラインアップ拡充**

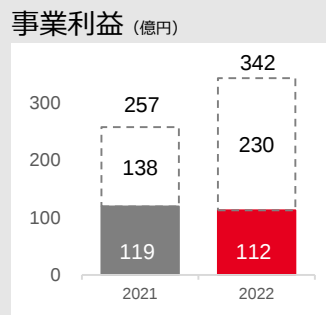
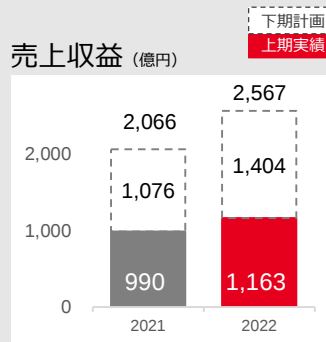
- 残存率**は概ね計画通り進捗



年間 **黒字化達成を目指す**

- CRM強化を継続(ラインアップ拡充 他)

実績・計画



2021年実績から豪州乳飲料事業は除外

業務用に加えて家庭用も回復傾向にあり、収益改善策も計画通り進捗。北米クラフトも好調を継続。「マーケティング変革」と「SCM改善」の2本柱の効果が着実に表れ始めている

上半期の進捗

期央修正・下半期の取り組み

▶ プレミアムブランド成長・ミックス改善 (豪州)

業務用 **+1%*** 家庭用 **▲2%***

- 4~6月：業務用 +6%*、家庭用 +4%*
- 4~6月：主力ブランド XXXX (フォーエックス) +7%*

業務用での回復 **+15%***
(年間計画)

家庭用 **微増***
(年間計画)

- 業務用：直近は回復傾向にあるが、1Qでの遅れを取り戻すには至らないと見込み、期初計画+20%から下方修正

クラフトカテゴリー
インターナショナル カテゴリー 計 **+15%***

Fermentum **PMI推進**

- 製造能力増加による販売数量を拡大



▶ 海外クラフト戦略の強化

海外クラフト 他 **+55%***

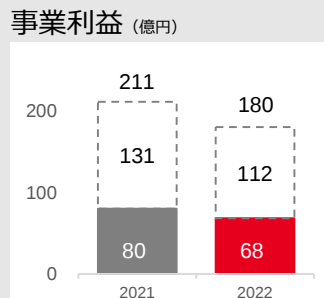
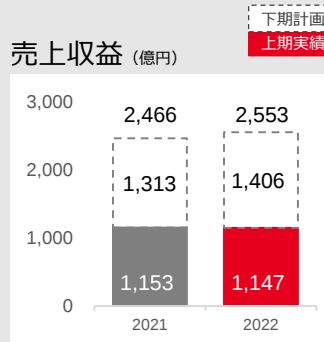
- Voodoo Ranger ブランド好調に加え、Bell's統合も順調に進捗

北米クラフト事業のPMI推進

- 各組織の機能や販売網の統合を加速
- 主力ブランド (Two Hearted、Oberon) へ投資集中



実績・計画



主力ブランドの午後の紅茶、生茶、プラズマ乳酸菌飲料は引き続き好調に推移。
下半期に向け、10月以降の価格改定効果含め、小型PET構成比増等で収益改善策を実施していく

上半期の進捗

期央修正・下半期の取り組み

▶ 主力ブランドの再成長

午後の紅茶 **+4%*** 生茶 **+5%***

- 午後の紅茶：ブランド全体では計画未達も、「おいしい無糖」は好調に推移し前年比+23%増
- 生茶：4月リニューアルにより、トレンドが反転しプラスへ

午後の紅茶 (年間計画) **+5%*** 生茶 (年間計画) **+10%***

- 午後の紅茶：上期トレンドを加味し、期初計画+9%から下方修正
- 生茶：好調な上半期実績に加え、8月末からの**ほうじ煎茶**
リニューアルの増分を見込み、販売計画を上方修正



▶ ヘルスサイエンスへのリポジショニング

プラズマ乳酸菌飲料 **+38%***

- iMUSE 朝の免疫ケア 3月の全国展開後、堅調に推移
- iMUSE 定番3品も+5%で堅調

プラズマ乳酸菌飲料 (年間計画) **762万箱 (+46%*)**

iMUSE 朝の免疫ケア
取り扱い拡大と6本パック拡充
による**店頭プレゼンス向上**



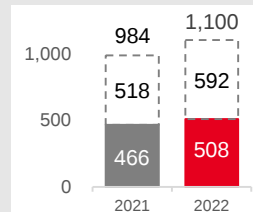
▶ 商品構成比 変革

小型PET構成比** **+約1.5ppt**

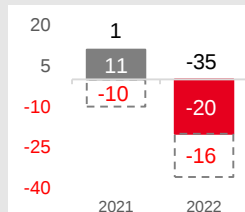
小型PET構成比** (年間計画) 計画通り**+約3pptを目指す**

ヘルスサイエンス領域

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)

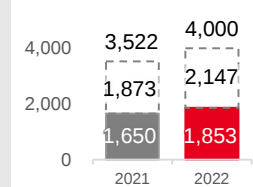


管理上の集計値であり、キリンビール・
キリンパレージのヘルスサイエンス関連商品を含む

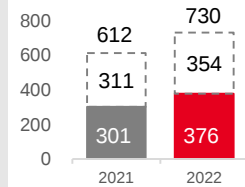
下期計画
上期実績

協和キリン

売上収益 (億円)



事業利益 (億円)



上半期の進捗

期央修正・下半期の取り組み

▶ プラズマ乳酸菌事業拡大

プラズマ乳酸菌関連売上 (対前年) **+47%**

プラズマ乳酸菌 機能
名称認知率* **約70%** 認知率** **約30%**

*名称を知っている割合 **具体的な機能や効果を知っている割合

プラズマ乳酸菌関連売上 (対前年) **+40%**
※期初計画通りの達成を目指す

- BtoBチャネルの提携強化
- 健康課題×免疫ケアの組み合わせによる顧客接点の拡大

「キリン iMUSE免疫ケア+マルチビタミン8種」
8月2日 全国発売



▶ 協和発酵バイオ

- 上海ロックダウン等の影響により協和発酵バイオの事業利益は対前年▲13億円

- 上海における工場の操業・販売の再開
- 収益改善策として価格改定を予定

▶ グローバル戦略品の着実な成長 (対前年 日本+海外売上成長率・円ベース)



+38%



+42%



+6%

最新の販売見通しや
為替影響などを踏まえ、
事業利益予想を

640億円 ⇒ 730億円
に上方修正



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together

資料編

Joy brings us together

2022年度 2Q実績：平準化EPS 明細

(億円)		22年2Q実績	21年2Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	554	237
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	-23	302
平準化 四半期利益	③＝①＋②	530	539
期中平均株式数（千株）	④	831,023	833,607
平準化EPS（円）	③÷④	64	65

2022年度 2Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)

連結 売上収益

国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール
	その他・内部及びセグメント間取引消去
国内飲料	
	麒麟ビバレッジ
	セグメント間取引消去
オセアニア酒類	
	ライオン
	セグメント間取引消去
医薬	
	協和麒麟
	セグメント間取引消去
その他	
	メルシャン
	コーク・ノースイースト
	協和発酵バイオ
	その他・内部及びセグメント間取引消去

22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
9,170	8,640	530	6.1%
3,034	3,105	-71	-2.3%
2,903	3,000	-97	-3.2%
131	105	26	24.5%
1,135	1,142	-7	-0.6%
1,147	1,153	-6	-0.5%
-11	-10	-1	—
1,163	1,087	76	7.0%
1,163	1,087	76	7.0%
-0	-0	-0	—
1,850	1,647	203	12.3%
1,853	1,650	202	12.3%
-2	-3	0	—
1,987	1,658	329	19.9%
282	280	3	1.0%
959	717	241	33.7%
254	248	6	2.4%
493	414	79	19.1%

※「ミャンマー・ブルワリー」は、2022年度より「その他」の「その他」に区分を変更。

2022年度 業績予想修正：セグメント別 売上収益

(億円)

連結 売上収益	
国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール
	その他・内部及びセグメント間取引消去
国内飲料	麒麟ビバレッジ
	セグメント間取引消去
オセアニア酒類	ライオン
	セグメント間取引消去
医薬	協和麒麟
	セグメント間取引消去
その他	メルシャン
	コーク・ノースイースト
	協和発酵バイオ
	その他・内部及びセグメント間取引消去

2022年 修正予想	2021年 実績	対前年 増減	%
19,900	18,216	1,684	9.2%
6,851	6,613	237	3.6%
6,557	6,383	174	2.7%
293	230	63	27.3%
2,530	2,444	87	3.5%
2,553	2,466	87	3.5%
-23	-22	-1	—
2,567	2,163	404	18.7%
2,567	2,163	404	18.7%
-0	-1	0	—
3,993	3,517	476	13.5%
4,000	3,522	478	13.6%
-7	-5	-1	—
3,959	3,479	480	13.8%
585	579	6	1.0%
1,964	1,549	416	26.8%
533	530	3	0.5%
877	821	56	6.8%

2022年 従来予想	予想 修正額	%
19,500	400	2.1%
7,217	-366	-5.1%
6,955	-398	-5.7%
262	32	11.8%
2,567	-36	-1.4%
2,588	-34	-1.4%
-21	-2	—
2,399	168	7.0%
2,399	168	7.0%
-0	-0	—
3,793	200	5.3%
3,800	200	5.3%
-7	—	—
3,524	435	12.3%
604	-19	-3.1%
1,603	361	22.5%
556	-23	-4.1%
761	116	15.2%

※「ミャンマー・ブルワリー」は、2022年度より「その他」の「その他」に区分を変更。

2022年度 2Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)

連結 事業利益

国内ビール・スピリッツ	麒麟ビール
	その他
国内飲料	麒麟ビバレッジ
オセアニア酒類	ライオン
医薬	協和麒麟
その他	
	メルシャン
	コーク・ノースイースト
	協和発酵バイオ
	その他
全社費用・セグメント間取引消去	

22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
721	719	2	0.2%
220	267	-47	-17.5%
201	254	-53	-20.9%
19	13	6	51.4%
68	80	-12	-14.8%
68	80	-12	-14.8%
112	128	-17	-13.0%
112	128	-17	-13.0%
376	301	75	24.9%
376	301	75	24.9%
199	164	35	21.0%
-3	11	-14	-
109	70	40	56.9%
-10	3	-13	-
103	80	22	27.8%
-254	-221	-33	-

※「ミャンマー・ブルワリー」は、2022年度より「その他」の「その他」に区分を変更。

2022年度 業績予想修正：セグメント別 事業利益

(億円)

		2022年 修正予想	2021年 実績	対前年 増減	%	2022年 従来予想	予想 修正額	%
連結 事業利益		1,720	1,654	66	4.0%	1,660	60	3.6%
国内ビール・スピリッツ		755	705	50	7.0%	825	-70	-8.5%
	キリンビール	730	680	50	7.4%	800	-70	-8.8%
	その他	25	26	-0	-1.6%	25	0	0.0%
国内飲料		180	211	-31	-14.6%	180	—	—
	キリンビバレッジ	180	211	-31	-14.6%	180	—	—
オセアニア酒類		342	266	77	28.8%	345	-3	-0.9%
	ライオン	342	266	77	28.8%	345	-3	-0.9%
医薬		730	612	118	19.3%	640	90	14.1%
	協和キリン	730	612	118	19.3%	640	90	14.1%
その他		277	313	-37	-11.7%	235	42	17.9%
	メルシャン	-14	23	-37	—	15	-29	—
	コーク・ノースイースト	221	165	55	33.6%	172	49	28.5%
	協和発酵バイオ	-10	4	-14	—	5	-15	—
	その他	80	122	-42	-34.5%	43	37	86.0%
全社費用・セグメント間取引消去		-564	-453	-111	—	-564	—	—

※「ミャンマー・ブルワリー」は、2022年度より「その他」の「その他」に区分を変更。

2022年度 2Q実績：キリンビール

(千KL)	22年2Q実績	21年2Q実績	増減 %
ビール類計	712	740	-3.8%
ビール	215	210	2.3%
発泡酒	175	187	-6.3%
新ジャンル	321	343	-6.2%
RTD	205	218	-5.7%
ノンアルコール飲料	21	24	-12.2%

*ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

(億円)	22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
売上収益	2,903	3,000	-97	-3.2%
酒税売上収益	1,698	1,749	-51	-2.9%
事業利益	201	254	-53	-20.9%

21年2Q 事業利益 (億円)	254	主な内容
酒類等 限界利益 減	-50	ビール類計 -19億 (ビール増 5千kl、発 泡酒減 -12千kl、新ジャンル減 -21千kl) ビール類以外計 -8億 (RTD減 -12千kl ノンアル減 -3千kl) 品種構成差異等 -23億
原材料費 増	-12	
販売費 減	15	販売促進費増 -22億、 広告費減 36億 (計344億→330億)
その他費用 増	-6	
計	-53	
22年2Q 事業利益	201	

補足

国内酒類市場

- ▶ ビール類は前年同期比約 +3%。
- ▶ 業務用チャネルは約5割増。
- ▶ 家庭用チャネルは微減。

販売数量

- ▶ コロナ規制も解除され、業務用チャネルは大きく伸長した。一方その反動により家飲み需要が減少し、家庭用チャネルは減少した。
- ▶ 主力商品である「一番搾り」単体計は+13%と伸びを示している。

業績補足

- ▶ 業務用の伸長を上回る家庭用チャネルの販売数量減少に加えて、ミックスの悪化により品種構成差異もマイナスとなり、限界利益は50億円減少した。
- ▶ 市況の悪化により原材料高騰が顕在化しており、原材料費は12億円増加した。
- ▶ 足元の業績の悪化を受け、コストコントロールを実施し、販売費は15億円減少した。

2022年度 業績予想修正：キリンビール

(千KL)	2022年 修正予想	2021年 実績	増減 %	2022年 従来予想	修正値
ビール類計	1,588	1,571	1.1%	1,675	-87
ビール	524	475	10.4%	598	-74
発泡酒	369	387	-4.8%	361	8
新ジャンル	695	709	-2.0%	716	-22
RTD	442	449	-1.6%	492	-50
ノンアルコール飲料	53	49	8.1%	58	-5

(億円)	2022年 修正予想	2021年 実績	増減	%	2022年 従来予想	修正額
売上収益	6,557	6,383	174	2.7%	6,955	-398
酒税抜売上収益	3,849	3,713	136	3.7%	4,044	-195
事業利益	730	680	50	7.4%	800	-70

2021年 事業利益 (実績) (億円)	680	主な内容
酒類等 限界利益 増	99	ビール類計 28億 (ビール増49千kl、発泡酒減 -18千kl、新ジャンル減 -14千kl) ビール類以外計 7億 (RTD減 -7千kl、ノンアル増 4千kl) 価格改定影響・品種構成差異等 64億
原材料費 増	-85	市況の高騰等
販売費 減	77	販売促進費・広告費減 (計665億→588億)
その他費用 増	-41	経費増 他
計	50	
2022年 事業利益 修正予想	730	

対前年増減	酒類等 限界利益 増	195
対前年増減	原材料費 増	-30
対前年増減	販売費 増	-6
対前年増減	その他費用 増	-39
計		120
2022年 事業利益 従来予想		800



補足

販売数量計画

- 業務用チャネルは前年比4割超の増加見込み (2019年比3-4割減)。
- 家庭用チャネルは、価格改定の影響により、減少するが、ビール類計でプラスを見込む。

売上収益・事業利益

- 限界利益は販売数量の下方修正に加えて、燃料費の高騰などにより、期初計画より大幅にマイナス。
- 原材料の市況高騰に伴い、85億円増加。
- 価格改定を行い、原材料費等の高騰の影響を極小化する。
- 販売費は、業績の状況も踏まえ、大幅に削減する。

2022年度 2Q実績：キリンビバレッジ

販売数量（万ケース）		22年2Q実績	21年2Q実績	増減 %
カテゴリー別	紅茶	2,401	2,309	4.0%
	日本茶	1,407	1,400	0.5%
	コーヒ・飲料	1,187	1,217	-2.5%
	果実・野菜飲料	1,116	1,190	-6.2%
	炭酸飲料	583	646	-9.7%
	水	1,654	1,720	-3.9%
	その他	1,223	1,196	2.2%
容器別	缶	1,126	1,185	-4.9%
	大型PET	2,981	3,137	-5.0%
	小型PET	4,557	4,465	2.1%
	その他	906	892	1.6%
領域別	食領域	8,552	8,708	-1.8%
	ヘルスサイエンス領域	1,019	971	4.9%
	うちプラズマ乳酸菌商品	304	220	38.0%
計		9,571	9,679	-1.1%

（億円）		22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
売上収益		1,147	1,153	-6	-0.5%
事業利益		68	80	-12	-14.8%

※2022年から「健康・スポーツ飲料」は「その他」に含めて表示しております。

21年2Q 事業利益（億円）		80	主な内容
対前年増減	清涼飲料限界利益 増	12	販売数量減 -108万ケース -5億 商品・容器構成差異等 17億
	原材料費等 増	-31	原料費増 -20億、材料費増 -3億、加工費増 -8億
	販売費 減	12	販売促進費減 14億、広告費増 -1億（計129億 → 117億）
	その他費用 増	-5	
	計	-12	
22年2Q 事業利益		68	



補足

清涼飲料市場

- ▶ 清涼飲料市場は、前年比+3%で着地。

販売数量・売上収益

- ▶ 「午後の紅茶」の販売数量は、「おいしい無糖」シリーズの好調により+4%と伸長。「生茶」の販売数量は、4月の大型リニューアルを機に水準を高め、+5%と好調に推移。
- ▶ 健康志向の高まりにより、プラズマ乳酸菌商品の販売数量は+38%と大幅に増加。
- ▶ 売上収益は主力ブランド以外の商品の販売数量の減少により減収。

事業利益

- ▶ 販売数量の減少によるマイナス影響を、小型PET比率の増加などによるミックス改善影響が上回り、限界利益は増加。
- ▶ 一方、市況高騰による大幅な原材料費上昇の影響により、事業利益は減少。

2022年度 業績予想修正：キリンバレッジ

販売数量 (万ケース)		2022年 予想	2021年 実績	増減 %	2022年 従来予想	修正額
カテゴリー別	紅茶	5,280	4,991	5.8%	5,541	-261
	日本茶	3,283	3,104	5.8%	3,381	-98
	コーヒードリンク	2,527	2,585	-2.2%	2,584	-57
	果実・野菜飲料	2,302	2,407	-4.4%	2,345	-43
	炭酸飲料	1,287	1,313	-2.0%	1,369	-82
	水	3,279	3,673	-10.8%	3,301	-22
容器別	その他	2,855	2,702	5.7%	2,618	237
	缶	2,409	2,421	-0.5%	2,534	-125
	大型PET	6,248	6,726	-7.1%	6,309	-61
	小型PET	10,290	9,726	5.8%	10,417	-127
領域別	その他	1,867	1,903	-1.9%	1,878	-11
	食領域	18,534	18,739	-1.1%	18,820	-286
	ヘルスサイエンス 領域	2,279	2,036	12.0%	2,318	-39
	うちプラズマ 乳酸菌商品	762	523	45.7%	758	4
計		20,813	20,775	0.2%	21,138	-325

(億円)		2022年 修正予想	2021年 実績	増減	%	2022年 従来予想	修正額
売上収益		2,553	2,466	87	3.5%	2,588	-34
事業利益		180	211	-31	-14.6%	180	—

※2022年から「健康・スポーツ飲料」は「その他」に含めて表示しております。

2021年 事業利益 (実績) (億円)		211	主な内容	
対前年増減	清涼飲料限界利益 増	60	販売数量増 38万ケース 2億、商品・容器構成差異等 58億	清涼飲料限界利益 増 76
	原材料費等 増	-80	原料費増 -43億、材料費増 -20億、加工費増 -17億	原材料費 増 -53
	販売費 減	6	販売促進費・広告費減 6億 (計272億 → 266億)	販売費 増 -25
	その他費用 増	-17	販売機器費増 -7億、業務委託料増-8億	その他費用 増 -29
	計	-31		計 -31
2022年 事業利益 修正予想		180		2022年 事業利益 従来予想 180



補足

清涼飲料市場

▶ 清涼飲料市場は、前年比+3%と前年を上回る見込み。

販売数量・売上収益

- ▶ 「午後の紅茶」の販売数量は、上期トレンドを加味し、期初計画から前年比+5%へ下方修正。「生茶」の販売数量は、好調な上期実績に加え、8月の生茶(ほうじ煎茶)のリニューアルによるブランド強化より前年比+10%へ上方修正。
- ▶ ヘルスサイエンス領域は「iMUSE 朝の免疫ケア」の店頭プレゼンスの強化などにより、プラズマ乳酸菌商品の販売数量は+46%を見込む。
- ▶ 売上収益は、販売数量の見直しにより、従来予想から下方修正。

事業利益

- ▶ 販売数量の見直し、商品・容器構成差異等、原材料高騰の影響を価格改定や固定販促費の改善で相殺。事業利益は年初計画通りを目指す。

2022年度 2Q実績：ライオン

円ベース（億円）

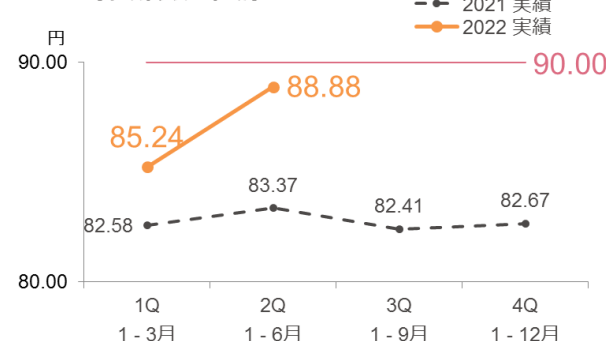
	22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
売上収益	1,163	1,087	76	7.0%
事業利益	112	128	-17	-13.0%

豪ドルベース（百万豪ドル）

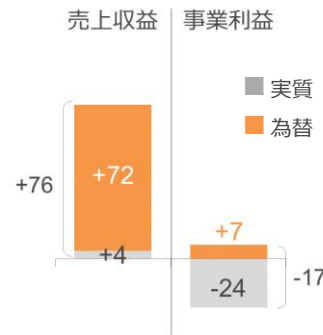
	22年2Q実績	21年2Q実績	増減	%
売上収益	1,309	1,304	5	0.4%
事業利益	125	154	-28	-18.4%

2021年2Q実績は豪州乳飲料事業（売上収益117m、事業利益11m）も含む。
除外後の上記豪ドルベース業績の対前年増減率は、売上収益+10.3%、事業利益-12.4%

AUD（オーストラリア・ドル）



連結為替影響（対前年） 2022年2Q実績（億円）



販売数量増減 *	8.5%
21年2Q 実績	154
豪州・NZ	-5
海外クラフト他**	-30
その他***	-18
22年2Q 実績	125

補足

売上収益

- ライオン計の売上収益は5mの増収だが、乳飲料事業売却に伴う減少分（-117m）を踏まえると、酒類事業は122mの増収。
- 豪州・NZは、1Q実績減少分が大きい、2Qにかけて回復。足元は業務用での販売回復が堅調であることに加え、買収したFermentum統合も順調に進捗。
- 海外クラフト他は、Bell's買収に加えて、New Belgium BrewingのVoodoo Rangerブランドが成長を続け（IPAブランドで北米No.1シェア）引き続き好調。

事業利益

- ライオン計の事業利益は対前年-18.4%。
- 豪州・NZにおける足元での業務用回復やBell's・Fermentum買収での増分があるも、1Qにおけるオミクロン株や洪水影響による減益や乳飲料事業の減分（-11m）をカバーするには至らなかった。
- 豪州・NZ・米国すべての市場において、原材料の調達制限や燃料等インフレによるコスト増があるも、販売数量は安定して推移。
- コスト増影響をおさえるべく、プライシング戦略とコスト最適化の収益改善策に継続的に注力。

* 販売数量増減は豪州・NZ・海外クラフト他の合計。
海外クラフト他を除く豪州・NZの販売数量は前年比-1.1%。
** 海外クラフト他は数量増減影響とその他の影響のネット額。
*** 豪州乳飲料事業1ヵ月分と本社費用等を含む。

2022年度 業績予想修正：ライオン

円ベース (億円)

	2022年修正予想	2021年実績	増減	%	2022年従来予想	修正額
売上収益	2,567	2,163	404	18.7%	2,399	168
事業利益	342	266	77	28.8%	345	-3

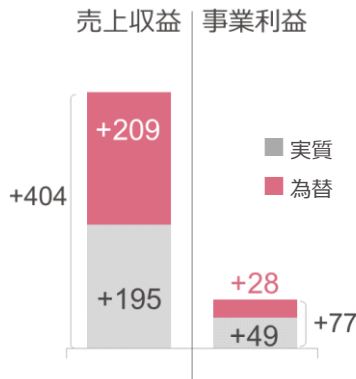
豪ドルベース (百万豪ドル)

	2022年修正予想	2021年実績	増減	%	2022年従来予想	修正額
売上収益	2,852	2,617	236	9.0%	2,926	-74
事業利益	380	321	59	18.3%	420	-40

2021年実績は豪州乳飲料事業（売上収益117m、事業利益11m）も含む。
除外後の上記豪ドルベース業績の対前年増減率は、売上収益 +14.1%、事業利益 +22.4%

通期予想レート：90.00円（豪ドル）

連結為替影響（対前年） 2022年予想（億円）



補足

売上収益

- ライオン計の売上収益は販売数量の減少により下方修正するが、対前年では+9%の増収を計画。
- 豪州・NZにおける新型コロナ感染と、1Qにおける洪水やパレット不足等の一時的な要因が影響した。
- 海外クラフト他は、New Belgium Brewingの販売とBell's統合が順調なため、計画通り大幅な増収を見込む。

事業利益

- ライオン計の事業利益も下方修正するが、対前年では+18.3%の増益を計画。
- 売上収益に記載した要因に加えて、原材料や物流費、人件費等のコスト増が響いた。
- 厳しい外部環境だが、引き続き、業務用チャネルの回復やプレミアム化によるミックス改善に加え、バリューチェーンにおけるコスト削減等の収益改善策を実施する。

2022年度 2Q実績 / 2022年度 業績予想修正：協和キリン

	22年2Q 実績	21年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,850	1,647	203	12.3%
協和キリン	1,853	1,650	202	12.3%
セグメント間取引消去	-2	-3	0	-
事業利益	376	301	75	24.9%
協和キリン	376	301	75	24.9%

≡
補足

売上収益 (2Q)

- 日本は、順調に市場浸透している「ダーブロック」「ロミプレート」「ジールスタ」などの増収要因があった一方で、2021年12月に後発医薬品が発売された「パタノール」の売上収益が減少したほか、薬価改定などの影響により、減収。
- 海外は、円安の影響に加え、北米、EMEAにおいてグローバル戦略3品である「Crysvida」「Poteligeo」「Nourianz」の売上が対前年で増加したほか、アジア/オセアニアにおいて「Gran」などの売上が増加したことで、増収。
- その他の売上収益は、主に昨年アムジェン社との共同開発・販売に関する契約締結を行ったKHK4083の技術収入の増加などにより、増収。

事業利益 (2Q)

- グローバル戦略3品の価値最大化と競争力あるグローバルビジネス基盤の早期確立に向けた販売費及び一般管理費が増加した一方、グローバル戦略3品を中心とした海外の売上収益の増加により増益。

	2022年 修正予想	2021年 実績	増減	%	2022年 従来予想	修正額
売上収益	3,993	3,517	476	13.5%	3,793	200
協和キリン	4,000	3,522	478	13.6%	3,800	200
セグメント間 取引消去	-7	-5	-1	-	-7	-
事業利益	730	612	118	19.3%	640	90
協和キリン	730	612	118	19.3%	640	90

≡
補足

売上収益 (2022年 予想)

- 円安影響などを踏まえ、上方修正。

事業利益 (2022年 予想)

- 円安影響のほか、次世代戦略品として開発を進めていたパーキンソン病治療薬KW-6356の開発中止に伴う研究開発費の未消化分を見越し増額修正。

2022年度 2Q実績 / 2022年度 業績予想修正：コーク・ノースイースト

円ベース (億円)

	22年2Q 実績	21年2Q 実績	増減	%
売上収益	959	717	241	33.7%
事業利益	109	70	40	56.9%

USDベース (million \$)

	22年2Q 実績	21年2Q 実績	増減	%
売上収益	770	661	109	16.4%
事業利益	88	64	24	36.6%

円ベース (億円)

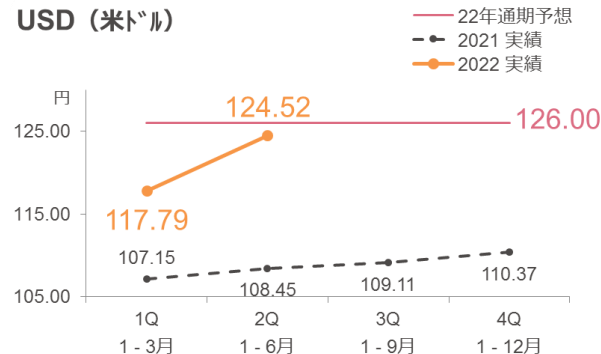
	2022年 修正 予想	2021年 実績	増 減	%	2022年 従来 予想	修 正 額
売上収益	1,964	1,549	416	26.8%	1,603	361
事業利益	221	165	55	33.6%	172	49

USDベース (million \$)

	2022年 修正 予想	2021年 実績	増 減	%	2022年 従来 予想	修 正 額
売上収益	1,559	1,403	156	11.1%	1,419	140
事業利益	175	150	25	17.0%	152	23

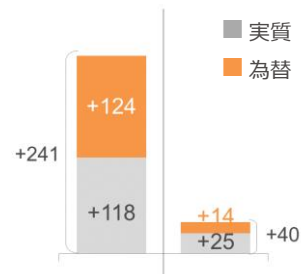
通期予想レート：126.00円 (米ドル)

USD (米ドル)



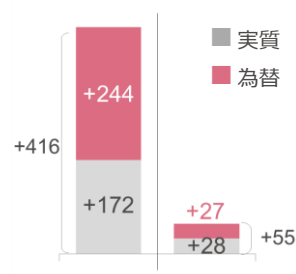
連結為替影響 (対前年) 2022年2Q実績 (億円)

売上収益 事業利益



連結為替影響 (対前年) 2022年予想 (億円)

売上収益 事業利益



2022年 2Q実績

- 販売数量は1Qに引き続き、業務用チャネル及び家庭用チャネルで増加した (+5.7%)。
- 昨年の8月と今年の4月の価格改定実施後も消費への影響は少なく、シェアの増加と継続したコストコントロールにより、大幅な増収増益を達成。

2022年 予想

- 原材料費の市況悪化や人件費高騰のコストアップといった懸念材料はあるものの、再度価格改定を実施し、引き続きコストコントロールを行うことで、期初計画に対し事業利益を増額修正。

➤ 引き続き新型コロナ影響は残るが、配当は2022年度より増配

(百万ペソ)	2021年累計(20年10月-21年9月)		2Q連結取込み期間			
			2021年10-12月		2022年1-3月	
	実績	累計 %	実績	増減 %	実績	増減 %
売上高*	117,528	6%	34,204	-4%	29,659	3%
営業利益*	27,840	10%	8,733	-10%	6,751	0%
営業利益率	23.7%	—	26%	—	23%	—
減価償却費及び償却費他*	4,991	13%	1,635	+6%	1,211	16%
EBITDA(営業利益+減価償却費及び償却費他)	32,831	10%	10,368	-7%	7,962	2%

*現地開示ベース（キリンホールディングス 2022年度2Q決算への取込み期間：2021年10月～2022年3月） 出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights, Quarterly Reports

持分法による連結取込み

(億円)	22年2Q	21年2Q	増減 %
当期利益 (SMB)	254	258	-1.8%
連結取込	123	125	-1.8%

為替レート：1ペソ=2.28円（前年同期：2.21円）

（キリンホールディングス 2022年度2Q決算への取込み期間：2021年10月～2022年3月）

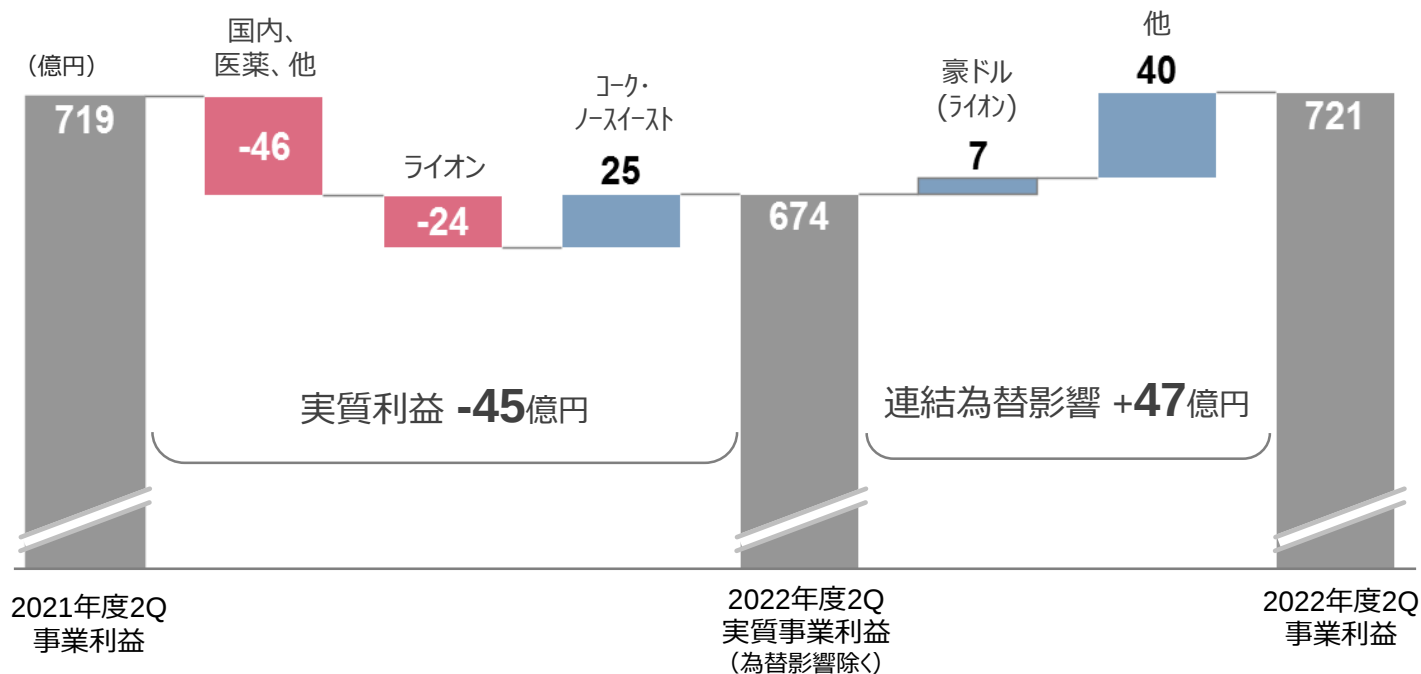
キリンホールディングス受取配当金

	22年2Q	21年2Q	増減 %
配当金（億円）	89	84	6.0%
1株当たり配当金（ペソ）	0.51	0.50	—

配当金についてはキャッシュインベースで計上

2022年度 2Q実績：連結為替影響

➤ 円安等を受け、連結為替影響は+47億円。



この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together